

# 令和5年度熊野古道協働会議・第3回分科会 (持続可能な保全体制づくり)

1. 分科会の目的・参加者・スケジュール	p.2
2. これまでの分科会の振り返り	p.6
3. 各市町の状況	p.9
4. 熊野古道サポーターズクラブ	p.10
5. 今後の進め方	p.15

令和6年3月27日 熊野古道協働会議事務局 作成

1

## 1. 分科会の目的・参加者・スケジュール

### ● 分科会の目的（熊野古道アクションプログラム3 追記編 より）

世界遺産登録25周年を迎える年には、伊勢路全域で**持続的な保全の仕組み**が構築されていることをめざし、分科会で検討し**工程表を作成**します。

→ **令和4年度に作成した工程表に沿って、継続検討**

#### ● 関係団体の担い手確保

企業のCSR活動によるご協力を得るなども含めた**新たな担い手確保策の積極的導入**や、臨機応変に保全活動を支援できる仕組みや方法についても検討します。

#### ● 保全活動に係る資金確保

クラウドファンディングなど**あらゆる資金確保策**を検討します。

#### ● バッファゾーンの森林管理のあり方

2

## ● 分科会の参加者

座長 玉津 充 氏 (海山熊野古道の会)

副座長 西山 光雄 氏 (二木島峠・逢神坂峠世話人会)

奥村 清司 氏 (熊野古道伊勢路を守る会)

出口 眞市 氏 (三瀬坂峠を守る会)

三重県教育委員会 社会教育・文化財保護課

委員 熊野古道伊勢路沿線市町の文化財保護担当課

(伊勢市、玉城町、多気町、大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町)

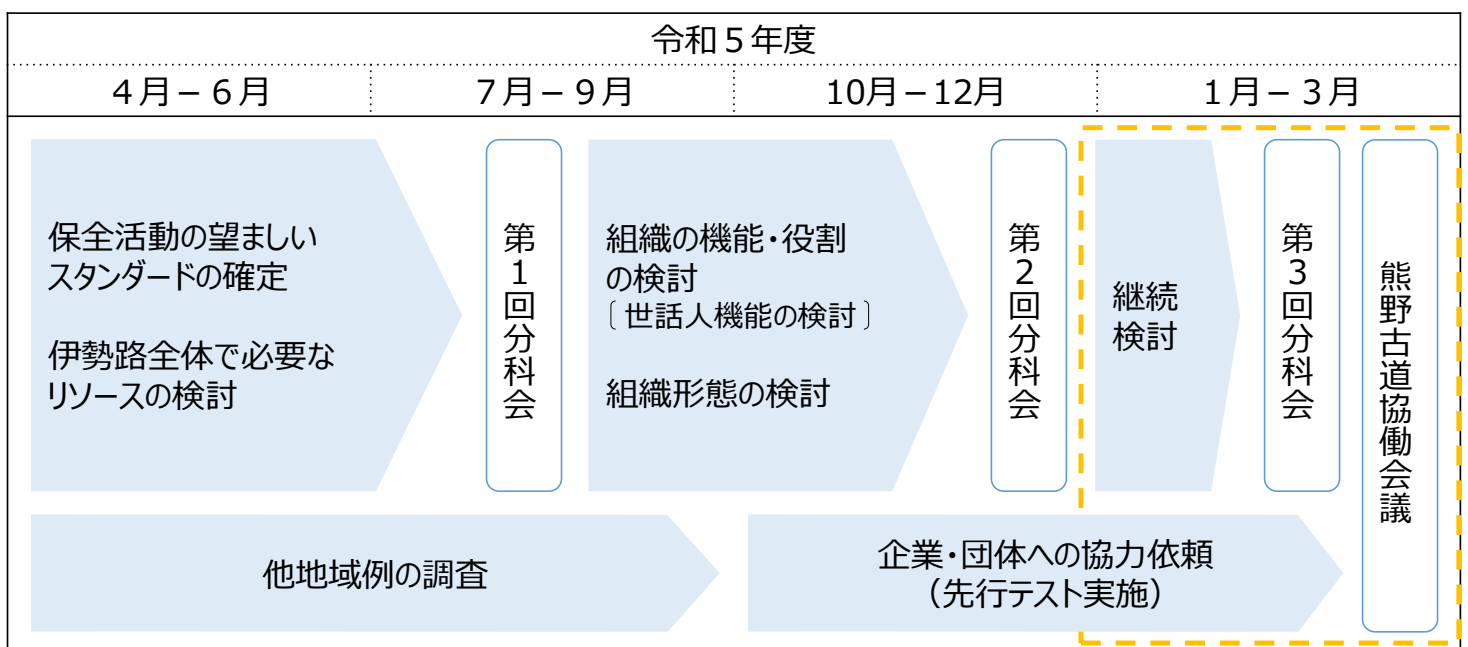
一般社団法人東紀州地域振興公社

三重県 (紀北地域活性化局、紀南地域活性化局、南部地域振興局)

\* コアメンバーのほか、熊野古道伊勢路にご関心のある方は、どなたでも参加できます。

3

## ● 分科会のスケジュール



4

# 持続可能な保全体制づくり 工程表

		R5				R6				R7~R11				
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	R7	R8	R9	R10	R11
伊勢路全体の保全体制を統括する組織	組織の検討	組織の検討				立ち上げ準備				立ち上げ				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保全活動の望ましいスタンダードの確定</li> <li>● 伊勢路全体に必要なリソースの検討</li> <li>● 他地域例の調査</li> <li>● 組織の機能・役割の検討 (世話人機能の検討)</li> <li>● 組織形態の検討</li> <li>● 立ち上げに向けた検討</li> </ul>	立ち上げ準備				立ち上げ				統括組織の機能として、企業・団体への協力依頼を実施				
担い手確保	サポーターズクラブ	新たな取組のトライアル実施				新たな取組の本格実施				毎年度検証・改善				
	ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報やノベルティなどのインセンティブ</li> <li>・ ニーズに応じて臨機応変に活動できる仕組み</li> <li>・ 継続的な道普請の実施</li> <li>・ 熊野古道に関する事前学習との組み合わせ</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語り部とのウォークイベントの開催や参加賞の缶バッジの作成など</li> <li>・ 地元高校生や企業と連携した保全活動</li> </ul>								
資金確保	団体	● 企業・団体への協力依頼 (先行テスト実施)				● 企業・団体への協力依頼 (先行テスト実施)				かつて実施していた企業・団体による協力をひとまず復活				
	資金確保	担い手・資金確保の継続検討 (一部、先行テスト実施)				組織設置前後からトライアル実施				検証 → トライアル実施 → 検証 → 本格運用				
		● 企業・団体への協力依頼 (先行テスト実施)				● 企業・団体への協力依頼 (先行テスト実施)								

伊勢路で目指す保全のレベルをどこに設定するかを考え、それにより投入する資金、担い手をどれだけ確保するのか、統括する組織はどうかあるべきか議論  
→ 組織形態(案)の提示 (p.8)

語り部とのウォークイベントの開催や参加賞の缶バッジの作成など  
・ 地元高校生や企業と連携した保全活動

かつて実施していた企業・団体による協力をひとまず復活

一体的に検討

## 2. これまでの分科会の振り返り

### (基本的な考え方)

- 行政経費のみでなく、多くの人々、企業・団体が少しずつ持ち寄る善意・厚志によって支えられる持続可能な保全体制を構築したい
- より多くの地元の人々に、熊野古道への理解を深め、主体的に関わっていただきたい
- 保全活動の望ましいスタンダード（標準）の検討  
→ 保全活動を通じて目指す伊勢路の姿  
「**文化的価値が保たれ、安全で快適に歩ける伊勢路**」
- 伊勢路全体で必要なリソース（投入する担い手・資金）の確認  
→ スタンダードを実現するためには、**約700人、150万円**の支援が必要
- 伊勢路全体の保全を統括する組織の検討  
→ 主な機能・役割は、以下の3つ  
「**保全活動に関する情報共有と推進、人的支援や財政的支援の受入、活動PR**」  
→ エリアごとに統括する組織を決め、その代表者の集合体が全体を統括する

6

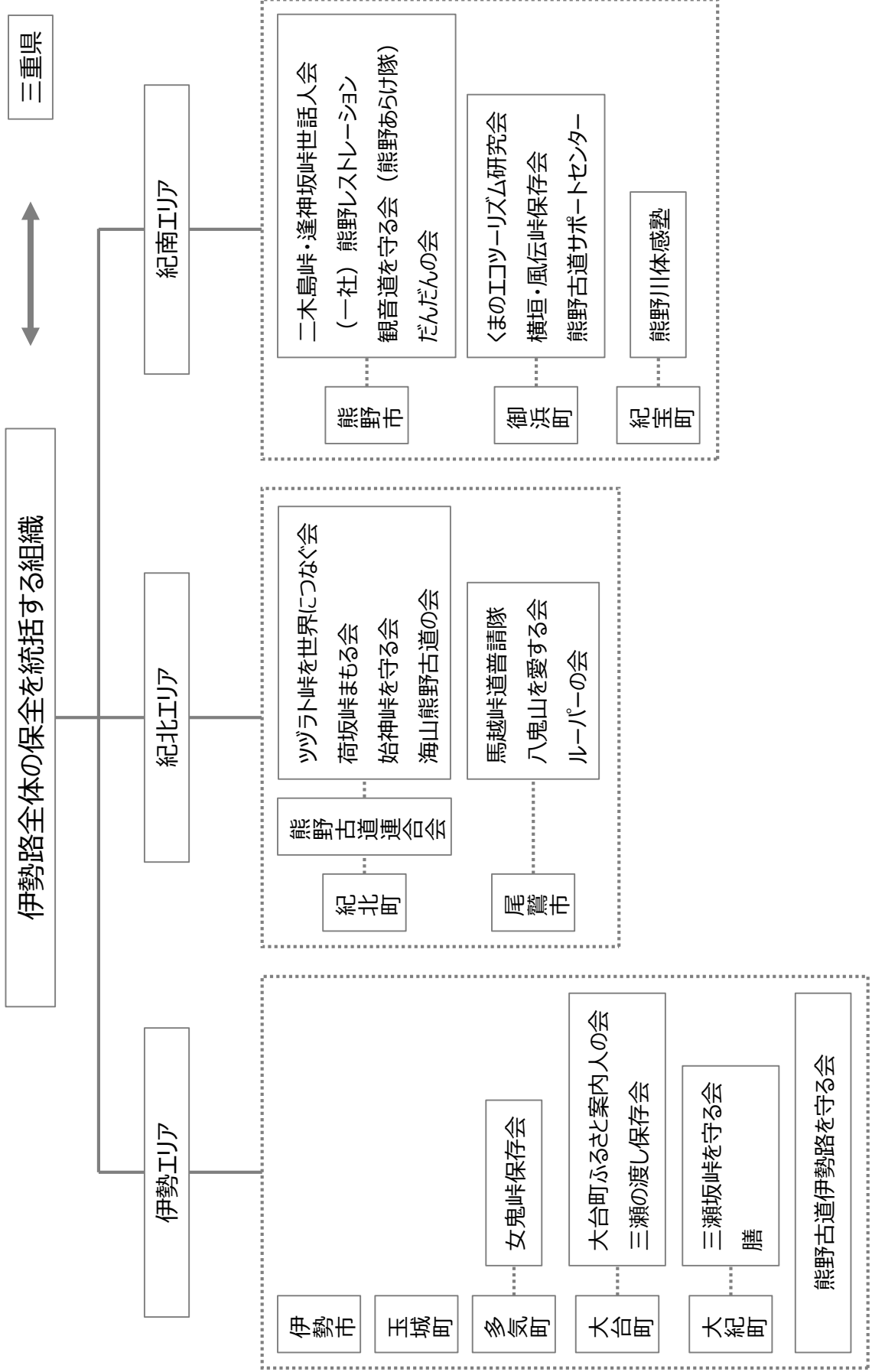
- 紀北町では、4 団体がまとまって「紀北町熊野古道連合会」を設立し、共同で景観保全の実施やイベントを開催
- 紀北町の事例を参考に、各市町でどう進めていくのか検討が必要

### 【これまでの分科会でのご意見】

- 各市町でどう進めていくのかということをお次回までに話し合ってもらい、それを踏まえて、各エリアで話し合うことになる。保全体制だけでなく、行政や関連団体等も含めて議論してほしい。

7

組織形態



### 3. 各市町の状況

持続可能な保全体制の構築について、各市町・保全団体にヒアリングを行いました。

- 伊勢エリア意見交換会（多気町・大台町・大紀町の保全団体・教育委員会）
  - ・ 行政や企業も含めた町全体が関わる組織にしていけないと、維持できない。
  - ・ 危機管理で責任を持てる組織をつかって運営することが大事。
- 尾鷲市・熊野市・御浜町・紀宝町ヒアリング
  - ・ 今後の方向性について、保全団体と話す機会を設けたい。
  - ・ 保全団体の活動に対して、何か起こった時に誰が責任を取るのか、問題になる。
  - ・ 町内の保全団体は高齢化で活動できておらず、今年度から、シルバー人材で草刈りを行っているが、保全まで至っていない。
  - ・ エリアでまとまっても、世話する人を養成していけないと高齢のまま。
  - ・ 町内には峠がないため、温度差があると思う。ボランティアでは限界がある。

9

### 4. 熊野古道サポーターズクラブ

#### ● 新たな取組のトライアル実施

- ・ 清掃ウォークの活動後に交流会を開催  
令和5年2月18日（土）逢神坂峠 会員8名参加
- ・ 保全団体の活動日に合わせた平日の開催  
令和5年3月24日（金）三瀬坂峠 会員7名参加  
令和5年11月8日（水）熊野川 会員14名参加
- ・ 語り部とのウォークイベントの開催  
令和5年10月7日（土）馬越峠 会員12名参加
- ・ 参加賞の缶バッジの作成  
各回で色違いの缶バッジを参加者にプレゼント
- ・ 功労者への刺繍入りタオルの贈呈  
昨年度の活動に参加された特別サポート会員(\*)にプレゼント  
\* 特別サポート会員：定期的にサポート活動に参加いただいている方



参加者との意見交換



缶バッジ



刺繍入りタオル

10



## ● 清掃ウォーク

令和5年度は8回企画し、総勢210名（うち会員125名）の方にご参加いただきました。初めて実施する場所もあり、語り部による案内なども楽しんでいただいた活動となりました。

			参加者（うち会員）
10月15日（日）	松本峠	だんだんの会	32名（20名）
11月 8日（水）	熊野川	熊野川体感塾	22名（14名）
11月11日（土）	始神峠	始神峠を守る会	23名（12名）
12月10日（日）	大吹峠	（一社）熊野レストレーション	27名（ 8名）
※熊野古道伊勢路一斉クリーンアップ作戦の一環			
1月13日（土）	三瀬坂峠	三瀬坂峠を守る会	35名（22名）
1月27日（土）	女鬼峠	女鬼峠保存会	26名（19名）
2月10日（土）	二木島峠・逢神坂峠	二木島峠・逢神坂峠世話人会	20名（15名）
3月16日（土）	波田須の道	（一社）熊野レストレーション	25名（15名）

11

## 保全活動体験の様子



松本峠

熊野川

始神峠

大吹峠



三瀬坂峠

女鬼峠

二木島峠・逢神坂峠

波田須の道

12

## ● 熊野古道伊勢路一斉クリーンアップ作戦

熊野古道の保全について社会の関心を高めるとともに、熊野古道に関心・愛着を持つ人を増やしていくため、保全団体とボランティアで「熊野古道伊勢路一斉クリーンアップ作戦」を実施しました。

なお、本年度、馬越峠については、三重交通グループが松阪駅～馬越峠を往復する無料ボランティアバスを運行し、参加者が清掃等を行いました。



### 【実施概要】

実施日：令和5年12月10日（日）

参加者：

- ・熊野古道サポーターズクラブ会員 10名
- ・協力団体 69名
- ・尾鷲高等学校生徒・教員 21名
- ・木本高等学校生徒・教員 11名
- ・保全団体 約60名
- ・行政機関 27名 計 約200名参加

実施団体及び場所：

- ・三瀬の渡し保存会 三瀬の渡し場周辺
- ・三瀬坂峠を守る会 三瀬坂峠
- ・荷坂峠まもる会 荷坂峠
- ・海山熊野古道の会 馬越峠
- ・二木島峠・逢神坂峠世話人会 曾根次郎坂・太郎坂
- ・（一社）熊野レストレーション 大吹峠
- ・だんだんの会 松本峠
- ・熊野川体感塾 熊野川川原

13

## ● 語り部とのウォークイベント

馬越峠にて、世界遺産である熊野古道伊勢路の価値と魅力を多くの方に伝えるため、語り部とのウォークイベントを行いました。

語り部による熊野古道の歴史や自然、また保全活動にも触れた案内を楽しんでもらいながらの活動となりました。

### 【活動概要】

日時：令和5年10月7日（土）12時から16時

活動内容：語り部との熊野古道ウォーク

（道の駅海山～馬越峠～馬越公園～尾鷲神社～県尾鷲庁舎）

参加人数：16名（うち、熊野古道サポーターズクラブ会員12名）



### 【参加者の感想】

「日常を離れ、会話を楽しみながら歩くことができた。保全活動の苦勞を聞き、清掃ウォークにも一生懸命取り組みたいと思った。」

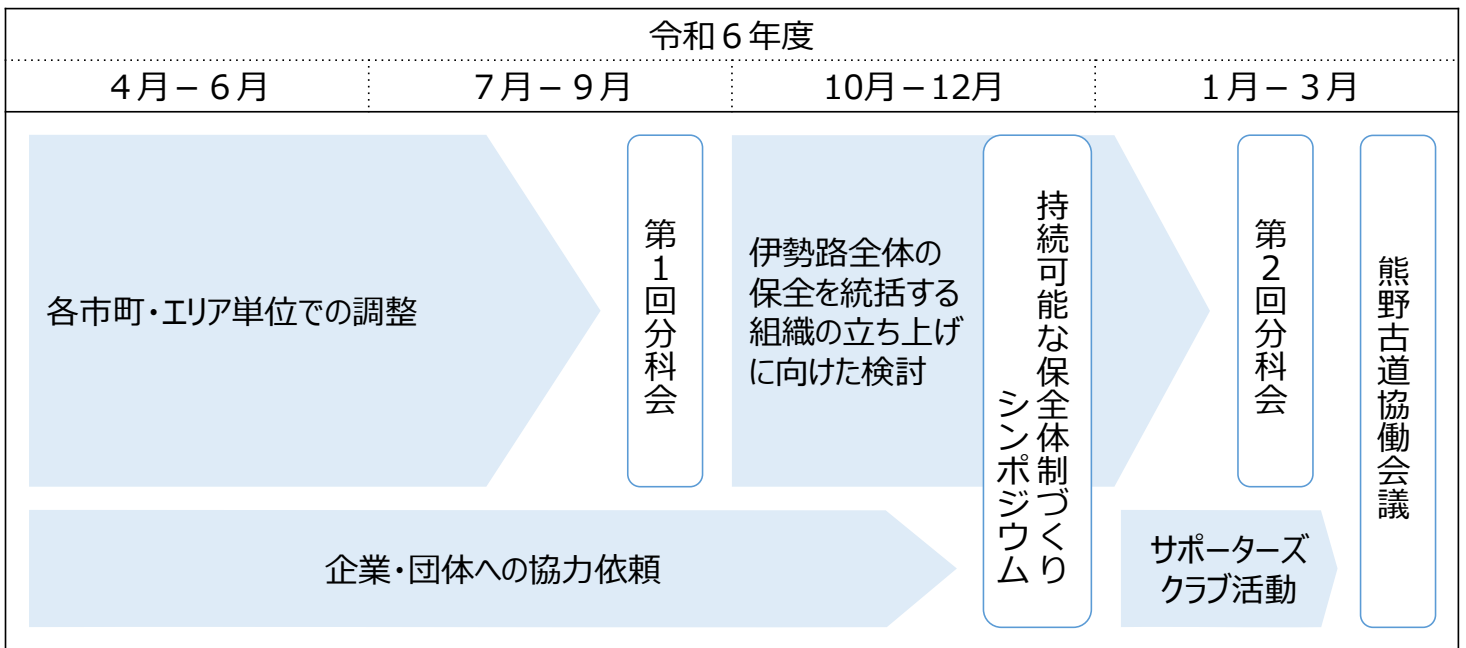
「いつも清掃ウォークに参加しているが、たまには清掃なしで歩くのも楽しい。」



14



## 5. 今後の進め方



15

### ● 今後の検討事項

#### ①伊勢路全体の保全を統括する組織について

各市町によって、保全に対する考え方や保全団体の状況も異なっており、現状では、市町を越えて、エリアごとにまとめるのは困難が見込まれる。

→古道沿道全体をカバーする組織の検討を具体的に進めていく必要がある。

#### ②保全に関する行政の窓口について

各市町（文化財保護担当課・観光担当課）での検討。

#### ③新たな担い手の確保・世話人の養成について

世話人（役員等）の負担軽減策や、講習会等の環境整備などを検討。

\* 各市町・保全団体へのヒアリング（p.9）参照

16

## ● 企業・団体への協力依頼

より多くの地元の人々に、熊野古道への理解を深め、主体的に関わっていただけるよう、古道沿道の地元の企業・団体へ協力の呼びかけを行っていきます。そのうえで、県内外の企業・団体へも協力を呼びかけていきます。

### 県内（古道沿道の地元）

- ① 例 ・県、市町の職員団体
- ・各商工会議所、商工会、観光協会等、古道活用と深い関係がある企業・団体が参加する団体
- ・その他企業・団体

### 県内（古道沿道以外）、県外企業・団体（平常時の活動はこちらを主）

- ① 例 ・創業者が古道沿道出身の企業、観光等により古道と関係が深い企業（交通、ツーリスト、宿泊施設等）等
- ・企業のCSR活動あるいは社員福利厚生事業の一環として検討（事前に十分な調整を要する）